

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2796300289		
法人名	株式会社 W		
事業所名	ういるグループホーム草部		
所在地	大阪府堺市西区草部84番地		
自己評価作成日	令和5年10月13日	評価結果市町村受理日	令和5年12月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和5年11月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は住宅街の中にあり、近くにスーパー、コンビニ、お寺、神社と立地条件に恵まれており、地域住民との関りも日常生活の延長で自然に出来ています。
施設の建物は平屋の古民家を改装しているのも相まって、町に違和感もなく溶け込んでおります。
『ありのままに、その人らしく』を企業理念とし、ご利用者様が歩んでこられた人生と豊かな経験を尊重し、その方の人生が、その人らしくこの地域の中で、これからも続いていけるようご支援させていただきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成28年12月に開設された当事業所は、本社が三重県にあり県内で8件のグループホームを運営している。大阪に1件ういるグループホーム草部がある。静かでのどかな環境で、古民家を改装して周辺に馴染んでいる施設である。室内は天井が高く、明り取り窓を取り入れ明るく落ち着いた雰囲気があり居室は、全室が畳部屋でリビングからの庭の眺めがよく、季節の移り変わりが楽しめ家族からも満足してもらっている。食事は、職員が交代で毎日調理し利用者の健康状態や食べやすい形を工夫して提供している。リビング、居室は常に整理整頓され清潔に保持されている。どんな高齢の方でも明るく楽しく過ごし、自分らしくありのままに生きがいのある生活を実現して頂けるように支援している施設である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関入口に掲げ朝礼や職員会議等で理念に則したケアが出来るように話し合っている	「ありのままでその人らしく」を企業の理念を玄関入り口に掲げ、利用者一人ひとりに合わせた介護を心掛けている。職員への周知・共有を朝礼や職員会議などで共有して実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日の散歩や買い出しに利用者を誘い、道中で近隣住民の方へ挨拶や世間話を行っている。また、不定期に近隣の認定こども園と交流会を実施している。地域のお祭りなどにも積極的に参加して地域住民とも交流を深めている	毎日の散歩や週1回の買い物に出かけ、挨拶や言葉がけをしたり近隣住民との関係継続に努めている。8月の盆踊りや10月のだんじり祭りにも全員が車椅子で参加したり、近くのこども園の運動会の玉入れに参加し、地域との交流を深めることができた。これからもマジックやギター演奏の催し物等を増やし地域との交流を深めたいとしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍以前は月に1回ふれあい喫茶を開催し、その時に専門知識のある職員が地域住民の相談に乗ったりしていたが、新型コロナの影響で現在ふれあい喫茶を中止しており、地域貢献は多く出来ていないのが現状	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議において行事や取り組み事についての報告を行い家族、利用者、地域代表者、有識者からの意見や助言を施設活動に取り入れている	2か月に1回、地域代表・地域包括支援センター・利用者・家族の代表と管理者が参加して開催している。入居者の現況や事業内容報告、ヒヤリハット報告書、今後の運営について意見やアドバイスをもらい、情報交換を行い利用者支援に活かしている。報告書は全家族に送付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃疑問に思う事は、高齢福祉課や生活保護課などに相談するようにしている。また、地域包括支援センターと連携し入居相談や見学を随時受付している	日頃から市の高齢福祉課・生活保護課を窓口としてインフルエンザ予防接種の無料条件や生活保護受給者の報告や相談を行い連携を図っている。月に1回グループホーム連絡会があり管理者が出席し、空き部屋状況や地域情報収集をして協力関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを職員が自由に閲覧できる場所に置きケア方針を考える場において常に介護指定基準に抵触しないようにしている。また、施設の方針もそれらに準じている	身体拘束適正化指針文書を整え、3ヶ月に1回以上の委員会と研修を実施している。玄関は、事務所の受付から見渡せ、人の出入りが確認できるので施錠はしていない。「ちょっと待って」等スピーチロックにならないよう「5分待って」など具体的に言い換えて対応している。居室では転倒防止対策のため家族の同意を得て人感センサーを使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止マニュアルを策定し年2回の研修・勉強会を行っている。また、そこでの学びやケースを通して、振り返りや気付きをもとに不適切ケアの防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在3名の入居者が法定後見制度を利用し施設生活を送られており、管理者が日常的に連絡を取り合い相談や要望を入居者の為に話し合うことが出来ている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の契約内容・重要事項説明書・個人情報取り扱いなどについて利用者・家族一人一人に時間をかけて説明しています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面接時に直接意見や要望を聞いたり、運営推進会議を通じ意見を伺ったり、また急を要する通達は電話以外にもSNSを活用して運営に反映させている	利用者の意見は、日頃のケアの関わりの中で聞き取り、朝・夕の申し送りノートで共有し、また面接時や電話連絡で家族からの意見や要望を聞き職員間で共有している。家族へは利用者の様子やイベントのスナップ写真を毎月1回送付して家族から喜ばれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼時や月1回の職員会議で意見交換の場を設けている。 職員に対して個人面談を設けて意見を聞き、それらを運営に反映させている	管理者は、3ヶ月に1回職員の意見を聞く機会を作り、月1回の職員会議をし運営に反映できるように努めている。腰痛緩和のための背当てクッションや利用者の症状から普通の車椅子からリクライニング式車椅子への買い替え提案や歌や音楽を聴くためのファイヤースティックの購入など職員の意見が反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援をして、長く勤めてもらえるよう環境整備を行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修方法の工夫やスキルにあった研修を検討し実施している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月に1回、同じ地区のグループホームの連絡会に参加し、意見交換、勉強会を行っている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面談や入居後のアセスメントを踏まえてニーズとデマンドを把握し、その人を理解し個別ケアを実践している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前面談に同席して頂き家族の希望に添えるように努める。また、安心して繋がる言葉選びをしています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用前に施設見学を実施しており、施設内の案内・説明の後、本人・家族の情報を聞いております		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人に出来る事をしていただけるような機会を提供しています。本人にホームの一員であることを理解していただく		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	緊急時のみならず、その日の一場面の写真や報告をメールや電話をして本人の生活に興味を持って頂けるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	重篤な感染症等の場合を除き9～18時の間で面会を認めている。家族以外でも友人・知人の訪問も面会を受け入れ、本人との関係が途切れないように努めている	近くの友達が面会に来てくれたり、利用者の一人は携帯電話を持ち込み家族との関係を大事にしている。馴染みの人との関係継続は難しく、電話や手紙のやり取りの要望に応えてこれまでの関係継続が途切れないよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや日々の様子、利用者同士の会話の中から、利用者が孤立していないか、トラブルがないかを注視している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居になった利用者には、ご家族から入院の様子や、困りごとなどいつでも相談に応じている。 こちらからも電話等を行い関係の継続に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションを通して、本人の希望・意向を探りケアプランに反映させている。聞き取りが困難な場合は利用者本位、利用者の利益を考えている	企業理念の「ありのままにその人らしく」とあるように、日々のコミュニケーションを通して普段の生活様子から本人の希望や意向をくみ取るよう努めている。職員会議や生活記録で共有して本人の望む暮らし方ができるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談等で、その人の今までの暮らし方や生活環境の情報を聞き出し、その人のライフスタイルを出来るだけ尊重する		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の身体状況と精神状況の把握に努め本人本位をベースに、今の状況に合った提案をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議でケアプランに沿ったケア以外に最近の様子や職員が感じた事を随時カンファレンスで検討を行い変更・調整を行っている	計画作成時に、主治医・管理者・ケアマネジャー・職員が参加して利用者本位の暮らし方や家族の要望に合った計画作成をしている。長期目標1年、短期目標1～3ヶ月の介護支援計画を作成している。身体状況変化時は随時見直しを図り家族に説明して同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日報・生活記録・介護記録・毎日2回の申し送りなどで職員間での情報を共有し、今後のケアの実践や介護計画の見直しに活用している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	提携医療機関以外への受診支援や、個々の希望で職員同行して買い物・外出支援も行っている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社会福祉協議会のボランティアさんや地域の認定こども園と交流会を開いている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医療機関と契約し訪問診療月2回、訪問看護週1回、歯科往診週1回、眼科往診週1回行っており、個別に受診が必要な場合に家族の付き添いが無理な場合は、職員が付き添いを行っている	入居時に本人や家族の納得・同意を得て、全員が協力医療機関の医師をかかりつけ医としている。内科は月2回、歯科・口腔ケア、眼科はそれぞれ週1回の往診を全員が受けている。消化器外科・整形外科は管理者が同行通院している。週1回の訪問看護師とは健康管理・状態の共有を図り連携している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護ステーションの訪問の際に疑問点などを相談し連携を密に取っている。必要時には電話等で相談するなど連携体制をとっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した場合、入院中は医療連携室を通じて情報を提供してもらい、早期に退院できるように医療機関と密に連携を取るようになっている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前に終末期に向けた看取りの指針、重度化した場合の延命治療の同意書の説明し、同意を得るようにしている。	入居時に看取り介護指針・延命治療処置に関する同意書を示し、事業所の対応を説明して同意を得ている。重度化した場合はその都度、本人・家族・医師・看護師らと話し合い方針の統一を図っている。年に1回看護師による看取り研修を行っている。本年9月に看取った96歳の利用者のお話をしながら職員は涙ぐんでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の初期対応はマニュアルと自社研修を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練の実施と、運営推進会議を通して地域協力を呼びかけている	年2回の法定訓練は4月に行い、11月に夜間想定も含めての訓練を予定している。自然災害想定も予定している。有事には近隣職員7名が駆けつける。11月より自治会への再入会や運営推進会議等で地域との協力体制の構築に取り組んでいく姿勢が伺える。水・おかゆ、レトルト食品等3日分の備蓄がある。事業継続計画(BCP)は策定中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者は人生の先輩であり、尊厳をもって言葉かけをしたり、接遇にも気を付けて対応している	3ヶ月に1回の虐待防止委員会、年1回の接遇研修を行っている。入室時や苗字での声掛け等、日頃の業務の中で管理者は常に利用者の尊厳を損なわないよう注意・指導している。個人情報に関する書類は施錠できるロッカーに管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が自己決定し易いように、問いかけには選択肢を用意するように努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や就寝時間も出来る限り、本人の希望に沿うようにして、個々の生活ペースを大切にしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じた洋服を職員がいくつか選び、その中でご自身で決めてもらっている。 洋服選びが難しい方は、本人の好みを把握して職員が支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、配膳など生活の一部として利用者の出来る事は職員と一緒にやって頂きADLの維持に繋げている	業者による献立・毎日の食材搬入で職員が調理をし、テーブル拭きは利用者と一緒にしている。同じ食材を炭水化物や塩分調整、刻み食・ミキサー食等個々の利用者に添って調理を工夫し提供している。月1回季節や行事に合わせた食事やおやつイベントを催し、10月は「たこ焼き・お好み焼きパーティー」を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の機能に合わせた食事形態を行っている。食事摂取量や水分量は介護記録に記入している。また食事、水分摂取の管理の必要な場合はかかりつけ医の指示の指示を受けて提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施している。週1回の歯科往診時に、口腔ケアについての助言や指示を受けている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	画一的なケアではなく個々の排泄パターンを把握し、声掛け・誘導を行っている	布パンツ1名、リハビリパンツ5名、おむつ2名、夜間のポータブルトイレ使用が2名である。日報により個々のパターンを把握し、トイレ誘導している。2～3時間に1回見回り睡眠を妨げることなく支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録等で日々の排泄パターンを把握し、起床時や朝食時に水分を摂って頂いたり、室内歩行、腹部マッサージを行い便秘予防に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日を決めずに出来るだけ利用者の望むタイミングで入浴できるように支援している。	週2回以上午前を基本としているが、体調や気分を見て利用者の気持ちに添って柔軟な対応をしている。シャワー浴や2人介助等個々の利用者に添って支援をしている。入浴剤や家族から送られてきたゆずでゆず湯を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも居室で休んで頂くこともあり個人のペースで休息をとってもらっている。寝付けない時などは、温かい飲み物などを提供したり談話するようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルで薬情報を職員全員が分かるようにしている。薬に変更があった場合は全体申し送り、生活記録、日報に記載し職員へ情報の共有を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力や出来ることに合わせて、洗濯物たたみや、配膳準備などの家事を職員と一緒にやって頂くようにしている。嗜好品などは、職員と一緒に買い物に出かけたりと購入の支援を行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の日課で近隣を散歩したり、職員と一緒に買い物に出かけたりもしている。ご家族との外出・外食も積極的に対応しています。	コロナ感染が収まらない為、家族と一緒にの外出は出来ていないが、日常的には事業所の玄関周りや庭、公園への散歩で隣人と挨拶を交わし会話を楽しむ利用者がいる。地車お披露目曳行見学や地域の盆踊り、10月には全員車イスでだんじり小屋まで見学等外出を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人の能力や事情に応じて家族、知人との交流を支援し、希望者には家族や後見人からのお小遣いを所持、管理できるよう体制を整えている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一人一人の能力や事情に応じて家族、知人との交流を支援し家族や知人が面会に来なくても電話を通じて繋がりを感じてもらえるように支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間にソファを置き、くつろげるよう工夫している 共有部は常に清潔、安全な環境を整えている 居間の大きな窓からは和風庭園が一望できる 食事中は、懐かしいナツメロや唱歌を流し心地よい空間づくりに努めている	高い天井や、南に面した大きな窓からの暖かな陽ざしを受けたりリビングは、明るく独特の雰囲気を持っている。壁面には手作りのカレンダーをかけている。飾りつけは多くはないが、しっとり落ち着いた調度品などが置いてあり、家を思わせる共用空間となっている。卓上ゴミ入れ等を作る為の新聞折りをしている利用者の姿があった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関にベンチ、居間にソファ、テーブルを分けて利用者自身が思い思いの過ごしができるように工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を持ち込んでいただき、今まで慣れたしんだ環境に近い場所として感じてもらおうようにしている	エアコン・洗面台・トイレ・防災カーテンが備え付けになっており、ベッドは持込みかリースである。全室、畳部屋で、これ迄の暮らしに近い仕様になっている。利用者はテレビ・チェスト・家族写真・仏壇等馴染みの物を持ち込んで、その人らしい部屋作りをしている。新任間もない管理者はおむつ等の収納を始め整理整頓に取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーとなっており、居室、トイレ、脱衣場の入口は全て引き戸で、車椅子や歩行器でも安心安全に移動出来るように整備されております		